



凡 事 徹 底

ようやく秋らしい毎日が続くようになりました。しかし、あと1か月もすると12月です。街ではハロウィンが終わるやいなや、クリスマスの飾りが登場し始めました。つい最近まで真夏日だ猛暑日だと騒いでいたように思うのですが、あっという間に冬が目の前まで来ているのですね。先日、ニュースで気象学者が、このままいくと将来日本は四季ではなく夏と冬だけの二季の国になるかも、と言っていました。ひょっとすると本当になるのではと思っています。

そんな中ですが、今年度もすでに後半戦に突入しています。大阪市の学校では、一年間の学校運営を行うに当たって、「運営に関する計画」というものを立てて取り組みを進めているのですが、この時期、その中間の振り返りをするようになっていきます。「運営に関する計画」とは、大阪市の掲げる教育振興基本計画に沿って作られた全市共通目標の中から、学校が、実態に合わせて何点かを選び、それを達成するための取り組みを示したものです。(学校ホームページのリンクからもご覧いただけます。)学校における安全や安心、学力と体力の向上のほか、ICT 活用や教職員の働き方改革についても、目標を立てることになっています。例えば、「安全・安心な教育」という項目では、本校は「小学校学力経年調査における『学校に行くのは楽しいと思いますか』」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。」という目標を立てています。そして、それを達成するための具体的な手立てとして「子どもの情報を共有する場(生活指導部会や特別支援打ち合わせ会など)を毎月設定することで子どもの困り感や学校の課題に教職員が気づき、適宜対応できるようにする。」としています。これは、子どもたちが、毎日学校生活を楽しく過ごすためには、楽しい行事を打ち上げ花火のように乱発するのではなく、教職員全員で、日々の暮らしの中にある子どもたちの小さな綻びを見つけて丁寧に繕っていくことが、最も大切であるという考えから立てられた方策です。そしてそれにより、天王寺小学校の子どもたちの多くは、日々落ち着いた学校生活を送ることができているのではないかと考えています。

しかし、こうした落ち着きを続けていくことは、結構難しいなあと思います。学校における教育活動は、それだけで成り立つものではなく、教育活動を下支えする土台がきちんとあってこそその賜物だからです。では、毎日楽しい学校生活を送るための土台とはどんなことでしょうか。

「^{ばん じ てってい}凡事徹底」という言葉があります。凡事とは、平凡なこと、大したものではないことです。「凡事徹底」とは、その何でもない当たり前のことを徹底してやることの大切さを表した言葉で、実業家の鍵山秀三郎さんが提唱され、パナソニック創業者の松下幸之助さんも座右の銘とされていました。また、野球選手だったイチローさんもこの考えを大切にされています。ここで言う「凡事」とは、あいさつをする、時間を守る、使ったものをもとの場所に返す、脱いだ靴をそろえる、など誰もが簡単にできる平凡なことばかりです。他にどんなことがあるのか考えてみても、誰かに何かをしてもらったら「^{ささい}ありがとう」と言う、きちんと掃除をする、ゆずり合うなど、日常生活の些細なこ

とばかりが浮かんできます。しかし、それを徹底的にやり抜くとなると、話は違ってきます。平凡なことでも極めるとなると、そこには強い意思が必要になってきますし、意識しなくてもできるくらいの習慣となってようやくたどり着くものだからです。でも、その些細なことがきちんとできて初めて身に付けた学力や体力などが本当に意味のあるものになってくるのではないのでしょうか。その観点から見ると、いくら学力が高くても、トイレのスリッパが脱ぎ散らかされているような学校を素晴らしい学校と言ってよいのか、ちょっと考えてしまいます。

もちろん、子どもたちにそう求めるのですから、大人である我々こそが、子どもたちに見本を示さなければならないと思います。そして、今年度が残り半分となった今、天王寺小学校全体で「凡事徹底」に取り組むべきではないのかなと考えています。

さて、みなさんにとって、徹底すべき凡事はどんなことでしょうか？

同窓会 と かぶ天オータム

先週の日曜日、今年天王寺小学校の同窓会が行われました。本校の同窓会は、卒業11年後（なぜ10年後でないのかは、話が長くなるのでいずれまた…。）に行われ、卒業時に作ったメモリーボックスを開封するという行事を、毎年10月の最終日曜日にしています。今年は、平成26年度の卒業生が集まり、当時の担任の先生や校長先生、さらに教頭先生や専科担当だった先生をお迎えして、にぎやかに行われました。メモリーボックスの中には、各自の思い出の品の他、未来の自分に宛てた手紙など懐かしいものがたくさん入っていました。同窓生と先生たちが、それらを見ながら和気あいあいと語り合う姿は、当時にタイムスリップしたような雰囲気です、とても素敵でした。

また、今年は PTA 主催の「かぶ天オータム」も同日開催となりました。かぶ天オータムは、保護者の皆さんが、子どもたちに楽しい一日を提供しようという思いで実施される天王寺小学校の一大イベントです。楽しいゲームなどのコーナーがたくさんあり、学校を舞台にしながら学校の行事ではできないようなことをしていただいています。以前は夏に実施していたそうですが、暑さ対策で秋の実施に変更したところ、ハロウィン要素も加わって、年々仮装して参加する子どもが増えています。今年は、なんと500人を超える参加者があったと聞いています。学校からも先生方が参加してお菓子を配るなど、いつもとは違うふれ合いを楽しみました。

この2つの行事は、どちらも PTA の皆さんのおかげで成り立っています。かぶ天オータムは現役の PTA の皆さんが担っていらっしゃるが、同窓会も、地域にお住まいの歴代 PTA 会長の方々がお世話をしてくださっています。子どもがいるときはもちろん、巣立ってからつながってくださる天王寺小学校の PTA って、あらためてすごいなと思います。

これからも学校と保護者と地域が力を合わせて子どもたちを育てていけたらと思っています。よろしくお願いいたします。

知る人ぞ知る今年のレアアイテム

